柳井市教育委員会会議　会議録

1　会議の開催

（1）日　時　　令和８年９月１８日（金）　　開会　午後１時３０分
　　閉会　午後２時１０分

（2）場　所　　サンビームやない視聴覚室

2　出席委員

教 育 長	西　元　良　治
教育長職務代理者	厚　坊　俊　己
教育委員	瀬　山　真紀子
教育委員	綿　貫　良　子
教育委員	西　岡　琴　美

3　欠席委員　　なし

4　出席事務局職員

教育部長	山　本　直　邦
教育総務課　課長	半　田　一　豊
学校教育課　課長	大　田　恵　也
生涯学習・スポーツ推進課 課長	西　本　　龍
文化財室　室長	大　岡　弘　明
柳井図書館・大畠図書館　館長	小　柳　五　寛
学校給食センター　所長	西　本　佳　孝
教育総務課　課長補佐（書記）	古　谷　洋　美

5　傍聴者　　なし

6　会議日程

（1）議　案

①人議第　４号　　教育委員会の事務の点検及び評価に関する学識経験を有する者の委嘱について

②報告第２２号　　市長からの意見聴取について

③報告第２３号　　やない部活動改革推進協議会委員の委嘱について

④報告第２４号　　令和８年度全国学力・学習状況調査の結果について

（2）その他

7　議事の大要

（1）開会

教育長から、教育委員会会議の開会の宣言があった。

（午後１時３０分　開会）

（２）会議録署名委員指名

教育長から、会議規則第１３条の規定に基づき、綿貫委員、西岡委員の両名を指名した。

（３）議事内容

①人議第４号　教育委員会の事務の点検及び評価に関する学識経験を有する者の委嘱について

教育長は事務局に説明を求め、半田課長から、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条の規定により、平成２１年度から柳井市教育委員会では、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成、議会に提出するとともに、公表してきた。今年度も継続して実施するが、同法第２６条第２項では、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し、学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされており、点検及び評価の客観性を図るため、３名の学識経験者を委嘱するもので、任期は、令和８年９月１９日から令和９年３月３１日までとするものとの説明があった。

特に質疑等はなく、各委員とも異議なしということで、原案どおり承認された。

②報告第２２号　市長からの意見聴取について（令和８年度９月補正予算）

教育長は事務局に説明を求め、半田課長から、以下のとおり説明があった。

本件は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２９条の規定に基づき、市長から意見を求められた令和８年度柳井市一般会計補正予算案（９月補正）について、教育長において専決処分を行ったため、教育委員会の権限に属する事務の一部を教育長に委任する規則第５条第１号の規定に基づき、本委員会に報告するもの。

８月上旬から中旬にかけて、本件補正予算案の市長部局による査定が行われる中で、当該予算案について市長から意見聴取の申出があったが、定例の教育委員会会議の開催日が９月１８日であり、市議会定例会前に教育委員会会議を開催する日程的余裕がなかったため、同規則第２条第１４号の規定に基づき、当該補正予算案について「異議がない」旨を市長へ回答した。

一般会計予算９月補正について

・歳入は、当初予算で一般財源としていたものを物価対策の交付金や過疎債などに代わるなどの財源振替を計上した。

・小学校費について、施設修繕料に不足が生じる見込みのため増額を計上した。

・ウェルネスパーク管理費は、アクアヒルやないのプール水深調整操作パネルの表示板に不具合があり、修繕費として増額を計上した。

なお、この補正予算案については、当教育委員会の意向に沿ったもので

あり、異議がない旨回答した。本補正予算案は、本日の市議会定例会最終日において賛成多数で可決・成立しているとの説明があった。

質疑等なし。

③報告第２３号　やない部活動改革推進協議会委員の委嘱について

教育長は事務局に説明を求め、西本課長から、役員改選を受け、やない部活動改革推進協議会運営要綱第３条第１項の規定により、新たにやない部活動改革推進協議会委員を委嘱したもので、同要綱第４条第４項の規定により任期途中の委員の欠員による後任委員の任期は、前任委員の残任期間となっており、令和９年３月３１日までとの説明があった。

質疑等なし。

④報告第２４号　令和８年度全国学力・学習状況調査の結果について

教育長は事務局に説明を求め、大田課長から、本調査は、令和８年４月２３日に実施し、調査結果の公表は、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であること、国や県の平均正答率との比較により、序列化や過度の競争をあおるものではないことを考慮して行う。

調査結果の概要は、教科に関する調査の結果になり、平均正答率は、柳井市全体として、小学校・中学校ともに、すべての教科において全国平均を上回る結果となった。特に、小学校の算数においては、全国平均を大きく上回る結果となり、本市の、３Ｓ事業など施策の成果を反映する結果となった。

小学校国語では、特に成果がみられたのが「日頃よく使う漢字を正しく書くこと」で、特に課題の見られる点としては、「メモの情報から言葉を抜き出して条件作文を書くこと」が挙げられる。

小学校算数では、特に成果がみられたのが「３枚のカードを使って条件に合う小数をつくること」で、特に課題の見られる点としては、「２つの情報を縦と横に組み合わせた表を読み取ること」が挙げられる。

中学校国語では、特に成果がみられたのが「文に合う表現を考えて書くこと」で、特に課題の見られる点としては、「ある語句の類語を文中から抜き出すこと」が挙げられる。

中学校数学では、特に成果がみられたのが「正の数と負の数を用いて温度の変化を表すこと」で、特に課題の見られる点としては、「角の大きさが２倍になる作図を基に、証明する事柄の仮定を見出すこと」が挙げられる。

中学校英語では、特に成果がみられたのが「ヒアリングで、日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ること」で、特に課題の見られる点としては、「日常的な話題について、事実や自分の考えを英文で書くこと」が挙げられる。

続いて、児童生徒質問紙の結果のうち、「愛、夢、志をはぐくむ教育」と関連性が高い項目の結果について、「自分には、よいところがある」は「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答している割合が、小学校は全国の結果と比べて同程度、中学校は多く、望ましい状況がみられた。

次に、「将来の夢や目標をもっている」は、肯定的に回答している割合が、小学校・中学校ともに全国の結果と比べて大変多く、望ましい状況が見られた。

最後に、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」は、肯定的に回答している割合が、小学校・中学校ともに全国の結果と比べて多く、望ましい状況がみられた。

今後の取組については、現在柳井市では、子どもが主体となって学ぶことができるアクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を推進しているが、特に重点を置いている、授業で何が分かったのか、どんなことを学んだのか等、自己の成長を自覚できる「振り返り」のある授業づくりを引き続き進めていきたい。

また、ＩＣＴ活用については、ＹＩＰ（柳井市ＩＣＴ活用推進プロジェクトチーム）を中心に、デジタル教科書やメタモジを活用した授業づくりや、スタディポケットやまプリＣＢＴなどの生成ＡＩドリルを活用した家庭学習の充実といった、より効果的なＩＣＴ機器の活用を研究し、引き続き各学校と連携し、確かな学力の定着と、学ぶ喜びが味わえる教育活動の充実に努めるとの説明があった。

主な質疑応答は下記のとおり

厚坊委員：柳井市の場合、平均正答率を見ると、施策が活きてすばらしい結果が出ている。年によって平均は変わってくるので、常に継続の中で課題を見つけてやっていただきたい。平均だけで一喜一憂するのではなく、できない子、家庭環境等によりやれない子など個々をしっかり見ていくことが大切である。

瀬山委員：課題がみられる点を踏まえた問題をもう一度やってみるという取り組みはあるのか。

大田課長：各学校で、すぐに分析をし、課題を洗い出し、わからないものをそのままにしないサポートを心がけている。

西岡委員：中学校の日記を英語で書くとかもよいのでは。

教育長　：施策の補足説明を。

大田課長：小学校の算数では、今年で４年目になるが、特定教科学力強化授業で、３．４年に特定教科の先生をつけ、少人数できめ細やかな指導を続けている成果がでた。児童数、学級数が減っているが、特定強化の先生を減らさず、５．６年にも特定教科の先生をつけ、個別の支援もできるようになり、効果がでている。また、ＡＩドリルも使う機会が増え、一人ひとりに応じた問題

に取り組めている。

教育長　：３Ｓ事業を始めて４年経つ。小学校中学年の時に基礎基本の学習の取り組みを続けてきた成果が、中学校にも繋がっている。また、ＡＩドリルも、その子に合わせた問題が出てくるので、その問題を解くなど、学力状況を把握し、一人ひとりに応じた教育をやってきた成果が出てきたと考えている。また、地域の方が、小中学校に入って指導いただいていることも成果となっている。ぜひ、この取り組みを続けていけたらと考えている。

（４）協議会

教育長から、暫時、協議会とする宣言があった。

（午後１時５２分　協議会）

（午後２時１０分　再開）

（５）閉会

教育長から、教育委員会会議の閉会の宣言があった。

（午後２時１０分　閉会）

上記会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

教育長　　西　元　良　治

署名委員　　綿　貫　良　子

署名委員　　西　岡　琴　美

調整者　　半　田　一　豊